

研修報告（山口国体 10月6・7日）

ぎふ清流国体バドミントン 競技成功に向けて

少年男女ホッケー会場（岩国市玖珂総合公園）とバドミントン会場（光市総合体育館）を視察しました。池田町で開催されるバドミントン競技もあと1年と迫るなかでの研修で、大変参考となりました。

岩国市では、地区公民館の外観をみると、以前中央公民館での総会の際、研修したとおり歓迎の看板は勿論のこと、手作りの飾り付けがされており歓迎の気持ちが表れていました。

ホッケー会場の客席では、民泊関係者がお揃いの帽子やジャケットを着用しステックバルーンを打ち鳴らし、まるで地元から駆けつけた応援団のように熱気あふれる心のこもった応援をされていました。

バドミントンが行われた体育館では、通路まで観客で一杯。客席から得点する度に大きな歓声があがって館内に響き渡り、コートも客席も一体化して熱気が立ちこめていました。

各会場のスタッフはウェアや帽子の色分けにより役割が分担されており、円滑な運営に結びついており、事前研修等により打合せが的確にされている反面、各競技会場への案内看板が少なく、盛り上がりにかけているように感じました。

中学生や高校生が競技補助員として参加し、会場の整理など取り組んでおり、地元の方々も受付、接待、会場整理、環境美化などそれぞれのボランティアに携われていました。競技会場の外では、おもてなしとして飲み

物が振る舞われ、地元特産物品が並び、大勢の来場者で賑わって「おいでませ山口」の気持ちが伝わってきました。

研修を振り返って思うことは、選手や来場者にとって、気持ちよく試合や応援に臨める環境が必要だという事、やはり最終的には接客する人の対応が大切だと痛感しました。今回の研修で、試合に臨む選手の緊張感が伝わってきましたし、競技を運営していく難しさや、開催自治体の運営の大変さを学び、来年への参考にしなければと思いました。

池田町では特に、民泊を実施してのバドミントン競技ですので、岩国市と同様の準備をしていかなければならないので、町民の方々のご協力をお願いします。

（土川 博）



会場内は手作り「のぼり旗」で歓迎
（岩国市玖珂総合公園）



民泊関係者による熱心な応援
（岩国市玖珂総合公園）



コートも応援席も元気いっぱい
（光市総合体育館）